

夏季 各サークルの

独立二十周年 式典で演奏

吹奏楽研、インドネシアへ



各地で熱狂的歓迎

團長 佐藤 力男

インドネシアのスマトラ島は日本国より大きい。スマトラ州の下ウタラヤット紙の八月二十五日の紙面が領事館の機野副領事から他の新聞と共に送られてきた。紹介する。

この日本大学学生一行(団長・佐藤力男、五十一人)の来訪はスカルノ大統領の招待に基づき、数日前のインドネシア共和国独立記念日を盛大にするためのものである。このメダン市はジャカルタを除き最初の訪問先である。

日いる国の青年男女がまたロケットハリサンでシンフォニー公演した。このシンフォニーの夕は数

メダン市ウイスマブキットハリサンで開かれたシンフォニー公演



時間にはわたり、聴衆を席に釘付けにするほどの大きな感動を与えた。

公演は四幕に分かれ、第一幕は西国の国歌、インドネシアアラヤと君が代を聞かせた。第二幕はバダムタクリ、スヤキとコーラスなどの日イ西国の歌、第三幕はドライマックスの場となり、各種の行進曲とハンカールによる鮮やかな手まはりを見た。男子学生は海軍士官候補生スタイルの黒の制服、そして女子学生は白のシヨート・プリーツの姿で日本大学の頭文字を形どるN字形をつくり、胸をふるわせ志気を高める行進曲、それに有名なハローハローバンドなどを取りまわして演奏した。

ウイスマブキットハリサンのステージは残念ながら狭く、彼等の動きも不自由であったのは残念なことだった。

コンダクターの高木君はまた若いだが、公演の指揮に非凡な才を見せた。

また、ジャカルタ、バリ、バンドン、レンバンなど記念式典を中心とする各都市での演奏会パレードは熱狂的な歓迎を受け、立派に日

本文化使節の使命を果たすことに同行した部員をはじめ、出発に際しお世話になった日本大学、外務省、日本インドネシア協会に心からお礼を申し上げるべく、日大新聞社のご好意を通じて報告を簡単に申し上げます。

回想—羽田からマニラ経由パノック、六時間たらず、海上に湧く入道雲の歓迎がおもしろい。入道あり、獅子あり、美女あり、原爆あり、高度一万呎から雲の芸術が印象に残る。フィリピンもベトナム(南北)もタイも、空からは日本と何も変わらない。機外の気温はマイナス四十度である。

ジャカルタはインドネシアの首都である。青い空に白い建物が見える。独立二十周年を祝う横手舞、道路の両脇は紅白のインドネシア国旗、町を行き交う人々もウキウキした感じである。

八月十七日、ムルデカ宮殿は式典開始一時間前というにもう立水の余地もない。人々、人々、しかし、日本の戦中であつた国民の緊張感はなく、ちよつと、正月の宮中参賀に集まる人々を以てしている。二時間わたる大統領の演説は言葉の判らぬわかれわれをもおさげない。拍手がわき、爆発が起る。二十日の夜、ホコイル宮殿で大統領と一緒に歌い、踊ったとき、さらに新興国アジア、アフリカの良きリーダーであることを痛感した。

今の日本に欲しい政治家である。日本の占領は、明暗二つの跡を残していた。

スマトラのメダン市、バリ島のデエン、バサー、ジャワのレンバン、学生とアジア・アフリカ会議の町バンドン、演奏会場では、その地方の高官をはじめ招待された人の前で、また市中パレードでは

裸足でわれわれと二階にパレードする子供達と沿道に立ちつくす一般市民と、親善と友好を音楽に託して日程の許す限り努力した。滞在期間中の自由時間、四時間が示す通り、飛行機で、自動車で頭をつた、われわれが一番痛感したことは、体力であった。つねに最良の体力調整が各人に要求された。

インドネシア政府文化委員会のわれわれに対する親切と友情は、一生忘れることのできないアジアの同胞としての誠意であった。そして高度なインドネシア芸能を眼ざさなければわれわれに紹介してくれなかった。ケチャ踊り、ハロン・ダンス、レゴン、クラトン、クロンチヨン、数々のガメラが自然の美しさに調和してつねにわれわれの前に提供された。これらがみな、若い、そしてアマチュアによって構成され育っていることは、日本の歌舞伎、能、雅楽など対比されて感じ日本の伝統文化育成の

現状を打破せねばならないと思つた。

インドネシアの独立が日本の明治維新であったとすれば、独立二十周年は明治二十年である。昭和四十年は八十年後である。資源の



各都市で盛大な歓迎を受けて、パレードする吹奏楽団員

豊富なインドネシアは八十年を必要とするであろうか。各都市は想像以上に立派に整備され文化程度も高く、東京に比べて決して見劣りしない。そのインドネシアの人々は、アジアの日本を尊敬している。

日本のアジアにおける使命の重大さを感じた。浪費経済と、パツクホーのない日本が外国にいて考えさせられる。日本人が日本人として自覚し、肌の色の同じアジア人同志が力を合せて世界の平和に貢献せねばならない。